

「人生100年時代」



「人生100年時代」という言葉を最近よく聞きます。ベストセラーとなった本「ライフシフト」（リンダ グラットン著）で、長寿化時代の人生をどう生きるかがテーマとなっています。

これまでは、第1ステージ：「教育を受ける」、20歳前後まで学校に通って学ぶ。第2ステージ：「仕事や地域活動をする」、どこかに就職したり、地域の様々な活動を担う。第3ステージ：「引退する」、60代以降はのんびりと過ごすという3つのステージをたどっていくという生き方でした。

しかし、長寿化となった人生100年を生きる時代には、それらのステージを行ったり来たり、あるいは同時並行という生き方になるでしょうということです。

そして、ステージを行ったり来たりする時に大事な事が、①「教育」②「多様な働き方・生き方」③「無形資産」と言われています。中でも大事なのが、お金だけではない経験や人的ネットワークである3つ目の「無形資産」とのこと！

経験や人的ネットワークという無形資産の豊かさと言えば、まさに女性の得意分野です。市女性会の皆様方の日頃の活動もまさしくその賜物ではないでしょうか。

クレオ大阪中央4階にある女性のチャレンジ応援拠点にも、多様な活動をされている様々な年代の女性が日々訪れて、出会い、対話が生まれ、ネットワークが広がっています。その潜在的な可能性の大きさには目をみはるものがあります。

女性の得意分野を最大限に活かして、周囲の男性も巻き込みながら無形資産を増やして、人生100年時代を楽しんでいきましょう！

一般財団法人大阪市男女共同参画のまち創生協会
企画調整課長 沢田 薫

夕陽丘基金 DVの防止及び被害者の保護と自立支援

「あらゆる暴力のない社会づくり」にご協力ください！

平成29年度は、88件、838,904円を、「夕陽丘基金」に寄付いただきました。ひとりひとりの小さな支援がDVのない社会づくりにつながります。今後ともご支援よろしく願いいたします。



「夕陽丘基金」活動報告（平成29年度）

- 緊急一時保護施設入所のDV被害当事者への資金貸付 30件 268,640円
- 緊急一時保護施設対象の助成金の交付 6施設 総額 600,000円
- 夕陽丘基金講演会「里親ってなあに？～家族で暮らせない子どもたちを、地域で支えるために～」（平成30年3月3日（土））



大阪の女性たちの明日へのチャレンジをあなたの力で支えてください

女性のチャレンジ支援基金

当協会は、女性のエンパワメントや自立に向けた事業、DV被害者支援事業など、人権が守られ、安心して暮らせる社会の実現に向けた事業を進めてまいりました。一般財団法人ならではのネットワークの軽さで大阪の女性の活躍を一層推進していくために、チャレンジを支援する事業を、継続的に展開してまいりますので当協会の活動にお力添えを賜りますよう、心からお願い申し上げます。

基金の活用事例 働きづらさに悩むガールズのためのパソコン&仕事準備講座



生活が困難な状況にある生きづらさや働きづらさに悩む若い女性たちを対象に、生活自立にむけたパソコンスキルの習得と就労にむけた意欲の向上、自分に対する自信を獲得する機会を提供しています。

のべ受講者数 423人
多くの方が就業など次のステップに進んでいます。

お問合せ先



大阪市男女いきいき財団
正式名称（一財）大阪市男女共同参画のまち創生協会

〒543-0002 大阪市天王寺区上汐 5-6-25
TEL:06-7656-9040 FAX:06-7656-9045 URL <http://www.danjo.osaka.jp>

大阪市女性会だより ～地域で輝く女性会～

2018
vol. 3



新しい執行体制が決まりました

大阪市地域女性団体協議会設立70周年に向けて力を合わせましょう！

4月4日に開催された理事会で、役員の改選が行われ、新しい役員が決まりました。役員の任期は2年ですが、来年12月には、昭和24年（1949年）に「大阪市地域女性団体協議会（当初は大阪市婦人団体連絡協議会）」が発足し、70周年を迎えるという大切な時期に任期を務めることになります。

これまで市女性会は、学習を活動の基本にしながら、常に女性の教養と地位の向上をめざして活動してまいりました。時代とともに、地域のありようや女性の社会における役割も変化しています。とりわけ近年の少子化や核家族化の中では、子育てに悩む若い母親を支援し、未来を担う夢と希望をもった子どもたちを地域で見守り、育てるために、関係諸団体とも連携し、積極的な取り組みを進めているところです。

また、大阪市、府、経済団体があげて誘致活動を進めている2025年大阪・関西での万国博覧会の開催地がいよいよ今年11月に決定します。ぜひ実現にも力を合わせて協力するとともに、国際化の時代に貢献できる女性団体として、国際理解と国際交流を深め、世界の人々と協力して平和の確立に寄与したいものです。

「大阪市女性会だより」については、これまで年1回発行してきていましたが、少し発行の頻度を増やすことで、女性会の活動をもっと多くの方たちにも知っていただくとともに、各区や単位などを中心に、女性会の皆さんが地域で活動されている様子を広く伝えていきたいと考えています。あわせて来年の女性会設立70周年を間近に控えて、これまでの女性会の歴史や足取りについてお伝えすることで、もっと身近に知っていただき、活動の輪を広げることができればと願っています。

ご意見もお待ちしていますので、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



会長 矢田貝 喜佐枝
（城東区）



副会長 前田 葉子
（中央区）



副会長 平井 美代子
（阿倍野区）



副会長 後藤 ちづ子
（淀川区）



書記 大成 道子
（西淀川区）



書記 佐々木 邦子
（鶴見区）



会計 喜多村 操
（西区）



会計 永田 ゆかり
（住之江区）

会計監査 本郷 和美（福島区）
上田 眞起子（旭区）

◆各区の理事に就任された皆さん（敬称略、左は区協議会会長）

都 島 区	加藤 律子	寺田 いせ	淀 川 区	後藤 ちづ子	草積 祥子
福 島 区	本郷 和美	中西 陽子	東淀川区	松山 末子	渡 文子
中 央 区	前田 葉子	丸茂 照子	東 成 区	橋本 輝枝	細谷 悦子
西 区	喜多村 操	山本 由子	旭 区	上田 眞起子	橋本 悦子
港 区	松尾 フサ子	重森 キミエ	城 東 区	矢田貝 喜佐枝	又川 宇喜子
大 正 区	谷田 京子	松村 一江	鶴 見 区	佐々木 邦子	石川 梅子
天王寺区	桑原 朋子	白井 岐美子	阿倍野区	平井 美代子	梅園 純子
西淀川区	大成 道子	満島 信子	住之江区	永田 ゆかり	浅田 信恵

◆平成30年度 総会を開催しました

新しい役員のもとで、5月23日には「クレオ大阪中央」で総会が開催され、平成30年度活動方針や事業計画、それらを裏付ける予算が承認されました。



また、当日は、長く市女性会に貢献いただいた退任理事の皆さんに会長から感謝状と記念品をお渡ししました。

◆男女共同参画週間の街頭啓発キャンペーンに参加しました。

男女共同参画週間にあわせて、6月27日に大阪市役所前で街頭キャンペーンに参加しました。



1つは誰かにプレゼントしていただくことで、男女共同参画の輪を広げていく取り組みです。

「手渡しで広げる男女共同参画の輪～一つはあなたに、もう一つは誰かに～」をキャッチフレーズに、絆創膏を2つ配って



平成30年度 今後の主な活動予定

8月「大阪市ワーク・ライフ・バランス推進月間」事業

9月 全国一斉複十字シール運動街頭キャンペーン

9月～11月 市女性会会員親睦旅行

11月 クレオ大阪フェスタ バザー

「女性に対する暴力をなくす運動」講演会

「女性に対する暴力をなくす運動」啓発キャンペーン

大阪マラソン クリーンU P 作戦

1月 新年互礼会

各区「成人の日記念のつどい」でのDV防止啓発

2月「北方領土の日」祈念大阪府民大会

～2月 区女性学習会

3月 女性学習研究大会

シリーズ

大阪市女性会のあゆみ ～70年の振り返り～ 第1回

来年、70周年を迎えるといっても新しい会員の皆さんにはピンと来ないかもしれませんが、何回かに分けて女性会の歴史を振り返ってみたいと思います。

明治期には日本の各地で慈善事業を行うことを目的にした婦人会が生まれていましたが、大正期に入ると近代国家としての教育・道徳を養うことを目的に自ら婦人活動を行う団体が大阪にも生まれていました。

第2次世界大戦中には、いわゆる銃後の守りの一環として婦人団体が活動を担った時期もありましたが、戦後はGHQが女性解放に力を入れたこともあり、婦人参政権や男女共学の推進、雇用就労条件の改善などと合わせて、新しい女性による活動を広める動きが出てきました。大阪市には町会や学校単位で婦人会があったこともあり、そういう動きにいち早く対応して昭和24年12月に「大阪市婦人団体連絡協議会」が発足しました。

発会の際に目的とされていたのは、①婦人の社会的地位の向上を目指す、②社会的貢献の充実、③婦人自身の学習をする、という社会教育的な意義を求めたもので、これは今の女性会にも脈々とつながっているものです。

当初から戦後の混乱期の中で若い婦女子を守る取り組みや、社会貢献ということでは昭和25年のジェーン台風の際に市内湾岸部が広範囲に浸水した際に2万食のおにぎりや衣類の奉仕運動をした記録が残っています。

特に昭和27～28年頃からは青年層の薬物中毒（ヒロポン）が社会問題となったことから「ヒロポン撲滅運動」を展開していきますが、その流れの中で子どもたちが夜10時を過ぎてても街中をうろろする光景を嘆いて、何とか青少年の健全育成をという声が出てきました。発足当時会長をされていた須藤隆子さんが女性会（当時婦人会）の理事会に話を



持ち掛けた際に、侃々諤々の議論の結果「10時になると家に帰ろうと気づかせるものを造ろうではないか」という話になり、「サイレンはどうか」という意見も出たものの、「戦争のイメージがあるからもっと優しいものにしては」ということで（時代を感じます）、美しいメロディの出る鐘を造ったらと理事会で提案され、「愛の鐘の運動」を満場一致で決定し、募金活動を始めました。

200万円を目標に始めた募金は280万円に達し、経済界ほかの寄付とあわせて300万円という額が集まりました（現在の金額でいうと1500万円くらいに相当します）。そのうち200万円を鐘の鑄造に、100万円をメロディ装置取り付けの経費に充て、昭和30年5月5日のこどもの日に「みおつくしの鐘」として大阪市に寄贈しました。

このページに引用したのは当時全戸配布されていた「市政だより」の昭和30年5月号ですが、表紙を飾るトップニュースとして紹介されています。この鐘には次の言葉が刻まれています。

鳴りひびけ
みおつくしの鐘よ
夜の街々に
あまく やさしく
“子らよ帰れ”と
子を思う母の心を
ひとつに
つくりあげた 愛のこの鐘

昭和30年のこどもの日に
大阪市婦人団体協議会

鐘表には母子像がデザインされています、これが現在の市女性会のシンボルマークです。この鐘の口径は4尺1寸5分で「よ・い・こ」の願いがこもっています。

成人の日には新成人が打ち鳴らす「みおつくしの鐘」ですが、こういう願いが刻まれたものです。